

「いっ♡い♡あら♡
い♡ひ♡やら♡ア♡ア♡あ♡つ♡♡」

「へへっ
完全にスイッチ入っちゃったな」

「ひっ♡あ♡あ♡あ♡つ♡あ♡♡
ひ♡い♡ぐ♡ひ♡ひ♡ひ♡い♡グ♡♡
や♡ッ♡や♡あ♡あ♡ア♡ア♡あ♡あ♡ッ♡♡♡」

「暴れても無駄だったの
オレの熱い抱擁からは
絶対逃げられねえよ(笑)」

「いッ!!ぎッ...がッ
あ...が...あ...が...」

「おいッ殺すんじゃないぞ」

「わりいわりい
抱き心地が良すぎてな♡
痛くしてゴメンな♡
詫びとして種付けで
気持ち良くしてやるぜ♡」

「ひッ♡♡
や♡っ♡♡い♡ッ♡い♡ひ♡ら♡♡
ひ♡や♡ね♡ッ♡や♡ら♡♡ひ♡や♡ら♡♡
ひ♡や♡め♡で♡ひ♡や♡め♡で♡え♡え♡え♡え♡え♡♡♡」

「オラっイけ!!イけ!!
オレ様の種付けで
イきやがれええええッ!!」

みっ

みっ

びっ

ずっ

ずっ

ずっ

ずっ

「んああああアアあああッ♡♡♡」

「お…おお…あ…♡
やばッ…おねだ…り最高…♡
あ…ああ…射精…止まらねえ…♡」

「くっくっくっ♡♡♡
ひっ♡♡♡ひあアアあッ♡♡♡」

「ん…っ…♡
射精の度に…イって…ッ
ぐお…お…お…孕めッ孕めえええっ!!!」

「いっ♡♡おッ♡♡あっあ♡♡
ぐぎッ!!
あ…がッ…が…ア…♡」

「だから
それ止めろっ♡」

「ふ…ふ…♡
わりい…マジで
抱き心地最高…だから…♡」

「…ッ…はア…は…♡♡♡」

「…つたく可哀想に…
んじゃ俺が痛みなんて
忘れるくらいイかしくってやるか♡」

「や…ゆる…じで…ゆるじ…♡」

「んんん♡♡♡」

「みっ♡♡♡」

「みっ♡♡♡」

「んんん♡♡♡」

「んんん♡♡♡
んんん♡♡♡
んんん♡♡♡

「んんん♡♡♡」

「んんん♡♡♡」



